

本講義の内容・目標

人体スケールから建築・都市スケール程度までの所謂生活スケールを対象として、特に環境設計や環境管理を行う際に必要となる基礎的知識に関して講義する。一般には居住域レベルから建築・都市スケールを対象とした環境工学や計画原論と呼ばれる分野の内容に一致する。講義レベルは一級建築士、建築設備士、インテリアプランナー、環境計量士といった国家資格の試験問題に余裕を持って対応できる程度とする。本講義の終了時には、生活スケールでの環境を環境要素毎に、又、全体システムとして論理的に理解を深めることが目標である。生活環境システム学は本年度が最後の開講となり、次年度以降は「環境システム学」として筑紫地区にて4年次に開講される予定。

講義予定

04月10日：ガイダンス	----(生活環境概論)
04月17日：空気環境(1)	----(自然換気，機械換気，換気力学)
04月24日：空気環境(2)	----(必要換気量と換気設計法)
05月01日：(木曜講義日のため休み)	
05月08日：熱環境(1)	----(建築・都市スケールでの伝熱基礎)
05月15日：演習	----(講義内容に関する演習問題)
05月22日：熱環境(2)	----(日照，日射，都市気候)
05月29日：湿気環境(1)	----(湿り空気と湿り空気線図)
06月05日：湿気環境(2)	----(固体中の水分移動と結露)
06月12日：演習	----(講義内容に関する演習問題)
06月19日：人体温冷感覚と快適指標	----(温熱感覚，快適指標，環境心理)
06月26日：光環境＋色彩	----(採光，表色系，色彩と心理，色彩調和)
07月03日：演習	----(講義内容に関する演習問題)
07月10日：音環境	----(建築環境中の音の性質，騒音，遮音と吸音)
07月13日：(月曜講義日だけど休み)	
07月24日：空気調和設備	----(空気線図と空気調和プロセス)

成績評価方法

講義中に実施する演習課題の提出状況ならびに最終レポートにて総合的に判断する。
演習課題，レポートの比率は40：60程度。

レポート課題と作成に関する条件

「生活環境システム学で取り上げた話題に関連し、(試験)問題を作成せよ。計算を中心とする問題1題と論述問題を1題作成し、模範解答例も作成すること。」

- 計算問題の分量(解答の分量)は特に指定しないが、論述問題の分量(解答の分量)は3000 Words以上とし、稚拙で且つこの基準を満たさないレポートはゼロ点となる。
- 図表を引用する場合、出展を明記し、参考文献として文末にリストアップすること。
- 学籍番号(半角)、氏名を明記すること。レポート初頁の左上部に記載すること。学籍番号と氏名の欠落しているものは、採点対象外とする。
- 締めきりは7月30日(日) 18:00。それ以降は受け付けない。
- 提出はE-mailにて、ito@kyudai.jp宛
- E-mailのsubjectは学籍番号(半角)とし、メールの本文は名前のみを記載。
- レポートは、学籍番号.txt, 学籍番号.docx, 学籍番号.pdf等の名称(半角)・書式で保存すること

参考図書等

最新建築環境工学(井上書院)を参考図書とするが、必要な資料は講義中に配布もしくはWEB経由でダウンロード可能とするので、購入する必要はない (<http://www.phe-kyudai.jp>)

担当教員・連絡先(レポート提出先)

伊藤一秀(いとうかずひで)／筑紫キャンパス／総合理工学府／環境エネルギー工学専攻
092-583-7628／ito@kyudai.jp